

防衛大学校

Vol.24, No.1

# 図書館だより

National Defense Academy Library Bulletin

2009. 9. 1

主な内容

頁

教官著書の紹介……………	戦略教育室 西村繁樹 ……	(381)
教官著書の紹介……………	国防論教育室 道本光一郎 ……	(386)
教官推薦著書の紹介……………	応用化学科 杉江(神谷)奈津美 ……	(387)

~~~~~ 教官著書の紹介 ~~~~~  
 『「戦略」の強化書』

所 属

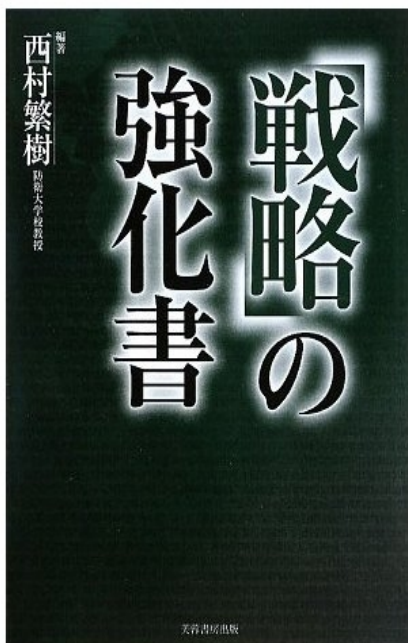
防衛大学校防衛学教育学群

編 著 者

戦略教育室

教授 西村 繁 樹

芙蓉書房出版（2009年）



本書は、防衛大学校の学生のみならず、戦略に入門を志す一般の方々にも役立つ軍事戦略の入門書を世に送り出すことを考え編纂したものである。軍事戦略に限らず、古今東西の戦略論と戦略を広く網羅するとともに、戦略的思考能力を養うことのできる市販の戦略の書籍を見出すことは困難である。そのことが、軍事戦略の入門書は防衛大学校戦略教官たる我々の手で世に送り出さねばならない、という使命

感を燃え立たせることとなった。

幸いにして執筆者は防衛学教育学群戦略教育室としては、これ以上は望みがたいと思われる陣容であった。博士1名、修士2名、陸上幕僚監部防衛部防衛課防衛班中期防衛係を経験した者2名であり、学術性と実務感覚のバランスのとれた構成であった。編集の任は、陸幕防衛班において、冷戦期最後の日本の防衛戦略を起案した筆者が担った。

以下、本書の要点を抜粋して、本書の紹介とする。

本書の構成は、「4部13章立て」になっている。第1部第1章は総論であり、その重点は本書固有の戦略的思考の方法論である。次いで、本書の前半の第1部第2章と第2部の各章は、「人（戦略家）」で区分している。後半の第3部の各章は「機能別戦略（核戦略や陸海空軍別の戦略）」および「地域別の東西間戦争抑止戦略（欧州と日本）」で区分し、最後の第4部は「秩序形成戦略」と名付ける新戦略で区分している。

上述のごとく、本書は軍事戦略を主体とするが、「戦略的思考」は、人生をいかに生きるかを考えることから始め、多様な用途がある。また、いかに生きるかを考えることは、戦略立案そのものといってよい。したがって、本書は軍事戦略の学習にとどまらない活用の広さがあると信じるものである。

戦略学習においては、「戦略的知識の修得」と「戦略的思考能力（戦略問題解決能力）の涵養（染み込むごとく身につける）」が目的である。知識なき能力の使用は、戦略を迷走させるだけであり、能力の使用の場なき知識の修得は、戦略を学ぶことの動機を失わせる。しかし、自衛隊にせよ企業にせよ幹部しか携われない戦略計画の立案や遂行の場、そして忘れてならない戦略情勢分析の場が与えられている。したがって、迷走を防止する戦略的知識の修得と、使用の場を意識した戦略的思考能力の涵養は、ともに重要である。

戦略学習の目的達成の期待度に関しては、戦略的思考能力の涵養がより重要である。幹部は、上述した戦略の実務の任に就くからで

ある。クラウゼヴィッツも「知識は能力とならねばならない」（『戦争論』第2編第2章）と説いている。これは至言である。戦略の実務に就く者にとっては、戦略的知識の修得は、戦略的思考能力を涵養するためということの意味しているからである。

本書編纂の目的は、戦略を学ぶ初心者に対し、戦略に関する基礎的知識を修得させるとともに、初歩的な戦略的思考能力を涵養させることにある。この際、基礎的・初歩的な戦略学習の段階においても、戦略的思考能力の涵養がより重要である。

戦略は総合的な思考を要し、戦略的思考能力は、一朝一夕に身に付くものではない。本書を学ぶことは、戦略的思考能力を涵養するための第一歩であり、本書修得後にも、継続的な自学研鑽の意志が必要であることは言うまでもない。

多くの戦略に関する書籍は、明示するにせよしないにせよ、上に述べた「戦略的知識の修得」と「戦略的思考能力の涵養」を編纂の目的としている。しかし前者の目的は達成しているが、後者の目的は達成していないものが多い。これはとくに軍事戦略に関する書籍に多い。

戦略に関するどのような書籍でも、必ず「戦略的知識」を得ることはできる。それは活字のもつ力による。他方、多くの戦略に関する書籍は、読み終わっても「戦略的思考能力」が身に付いたと感じられるものは少ない。身に付いたと思う場合でも、部分的に、悪く言えば「つまみ食い」的に身に付いたものが多い。この問題は活字の持つ力を越えている。つまるところ「編集の仕方」の問題である。

本書は、このような教訓を踏まえ、編集方針において、「戦略的思考能力」の涵養を最重視し、これが達成できるよう正面から取り組んだものである。

「戦略的思考」は戦略家の数だけあるといっても過言ではない。本書だけをとってみても、12個の戦略論と戦略を取り上げている。しかも、戦略家の戦略論も戦争あるいは戦争を抑止する戦略も、いずれも一見して全く関連性がない戦略論と戦略の「寄せ集め」のように見える

かもしれない。

また、戦略的思考の対象範囲も、広範多岐にわたる。国家の場合、その対象範囲は、国家戦略、安全保障戦略、軍事戦略および作戦戦略にわたる。しかも、思考の範囲は、軍事および非軍事の両分野を包含している。

「戦略的思考能力」を涵養するためには、山のような戦略の書籍を読破しなければならないのであろうか。

良書を多く読むことは望ましいことであるが、学者になる読者はともかく、そうでない読者には、もう少し時間の節約ができる学習法がある。「普遍化(すべてにあてはまるように)された戦略的思考」を身につけることである。

しかし、「普遍化された戦略的思考」もまた多義にわたる。戦略的思考の「何を(どこを)普遍化するのか」、人によって異なるからである。本書においては「戦略は環境に対応する」という戦略の神髄(極意)に触れた一語を、「普遍化された戦略的思考」の一例と見なし、この言葉の意味合いを具体化することで、普遍化の問題を解決することとする。

「戦略は環境に対応する」と言うことは、環境分析から戦略を立案する定型的な順序を設定できる、という意味合いを示唆している。したがって、本書においては「戦略的思考の普遍化」を、一つの一貫した一連の「戦略的思考の基本的順序(定型的な戦略的思考ともよぶ)の設定」とする。本書は、軍事戦略を中心に編纂されているが、本書における「戦略的思考の基本的順序」は、上述した国家戦略を始めとする各種の戦略や戦略情勢分析にも基本的に適用できる幅を持っている。

本書に採用した「戦略的思考」の定義を「戦略問題を見極め、これを解決する考え方」とする。この定義は幅が広い。幅広く定義する目的は、本書に取り上げた一見して全く関連性がないように見える戦略論や戦略を、できるだけ普遍的に包摂するためである。次いでバラバラに見える各戦略論と戦略を普遍的に包摂するため、一つの一貫した一連の「戦略的思考の基本的順序」を設定する。この順序

の設定により、一見バラバラに見える戦略論や戦略を個別的にも全体的にも、一つの一貫した一連の「定型的な戦略的思考」の流れで理解することができる。そのためには適切な「戦略的思考」の材料の選択が必要である。

本書では、戦略家の数だけあると述べた「戦略的思考」を、便宜上、まず「情報重視のアングロサクソン型(英米軍型)・孫子型」と「任務重視のプロイセン型(旧ドイツ・日本軍型)」と名付ける二つの型に大別する。

「情報重視のアングロサクソン型・孫子型」は、大局的かつ客観的に「戦略環境」を見極め、それから、何をなさなければならないか(本書では「戦略的意味合い」とよぶ)を導き出し、これに基づき戦略を立案し、遂行する。ゆえに「情報重視」である。この戦略は、任務達成において、戦略環境に逆らわずにこれに順応して、柔軟に戦略を変化させ適合させるものである。

「任務重視のプロイセン型(旧ドイツ・日本軍型)」は「戦略環境」を分析しないわけではないが、「戦略環境」が多かれ少なかれ含む不確実性と不透明性を問題視し、「戦略環境」の見極めをことさら重視せず、たとえ逆境に逆らっても、自ら欲する結果を得る戦略を立案し、遂行する。ゆえに「任務重視」である。この戦略には自らの作戦立案とその遂行能力だけを頼みとする弊害を伴う。そのため、情報の軽視とともに、「戦略環境を自らの行動で欲するように変え得る」という傲慢さが潜んでいる。

両者の最大の相違は、戦略目的達成の成否につながる「安全の-margin(失敗の許容度)」の差にある。「情報重視のアングロサクソン型・孫子型」が無理なく「戦略環境」に順応する戦略であることから「安全の-margin(失敗の許容度)」が大きいのに比べ、「任務重視のプロイセン型」は、「情報重視のアングロサクソン型・孫子型」に比べ「戦略環境」への順応性に欠けるとともに、恣意的(自分勝手)な戦略に陥りやすいことから「安全の-margin(失敗の許容度)」に乏しい。

事実、「任務重視のプロイセン型」に属し、

日露戦争後からその教訓を生かすことなく、情報を軽視した旧日本軍は、「満州事変」以来「安全のマージン（失敗の許容度）」に乏しい戦略を立案し遂行を続けた結果、第二次世界大戦において未曾有の大敗を喫することとなった。

アングロサクソンの成功の歴史と時空を超えて継承される『孫子』の思想を高く評価するとともに、大日本帝国の滅亡という苦渋の歴史への自戒の念を込め、本書では「情報重視のアングロサクソン型(英米軍型)・孫子型」の戦略的思考を採用した。

「情報重視のアングロサクソン型」の戦略は、一言で言えば前述のごとく「戦略は環境に対応する」という思考である。これは「金言（キーワード）」であり、決して忘れてはならない。

「戦略は環境に対応する」という金言から導き出される「戦略的思考の基本的順序」は、次の三段階である。

- ① ある国家等を取り巻く「戦略環境（あるいは時代背景）」を分析する。
- ② 分析した戦略環境から「戦略的意味合い」を導き出す。この「戦略的意味合い」の中に、その国家等が直面する喫緊（差し迫って大切な状態）の戦略問題と解決の糸口を見出すことができる。軍事組織で言えば、ここまでは情報部（これは軍事組織における一般的呼称として使う。防衛省、自衛隊には情報本部等があるが、これらの組織をとくに指しているものではない）の所掌（受け持ち）である。当然、問題解決の糸口を見誤れば誤った戦略へとつながってしまう。
- ③ この糸口を、防衛部（情報部同様一般的呼称）の立場からの表現で整理することにより「戦略の骨格」を得る。この骨格を肉付けし、具体的な戦略を構築する。

「戦略的思考の三段階」で最も重要であるが、初心者にとって最も難しい作業の一つは、「戦略的意味合い」を導き出すことである。なぜ最も重要か。「情報重視」の戦略的思考においては、戦略環境分析は、「戦略的意味合い」ま

で出さなければ防衛部の「戦略の立案」に資さないからである。「戦略的意味合い」を欠いた情報は防衛部にとって、何をなさなければならぬかが明らかでなく、「戦略の立案」上、不要のものと化す。

「戦略的意味合い」を適切に導き出すためには、「戦略的意味合い」とこれに続く「戦略（の骨格）」との関係を先に理解しておかなければならない。「戦略的意味合い」は、「戦略（の骨格）」を出すためのものであるので、書き下ろした際、両者が「対」になって記述されなければならない。読者が「なるほど『戦略的意味合い』の第1項は、『戦略の骨格』の第1項としてこう具現化されているのか、なるほど第2項はどうか」と分かる書き方にならなければならない。例外は出てくるがこれが本則である。

「戦略的意味合い」に基づき「戦略の骨格」を具現化することから防衛部の所掌となる。

「戦略の骨格」を具現化するためには、「戦略は環境に対応する」という金言と「戦略的意味合い」は、「戦略の骨格」を出すためのものであることを念頭に置く必要がある。

冷戦後は、自衛隊が対応すべき「戦略環境」が広がった。広がった「戦略環境」に応じ、冷戦期よりも「戦略を広げる」。ここが「戦略的意味合い」と並び最も重要で、発想できるかどうかすら難しいところである。防衛部の正念場といってよい。しかし、「戦略的意味合い」から導き出される「戦略の骨格」となる項目を「戦略的意味合いの対となる表現」で書けば自ずから発想できる。これは先に述べたとおりである。

「戦略の骨格」が出来上がったところで、理解を容易にするため本書にとりあげた冷戦後の戦略の名称を摘記すれば、「秩序形成戦略」「リスク・ヘッジ戦略」「抑止・対処戦略」の「三本柱」である。「抑止・対処戦略」だけで事足りた冷戦時に比べ、「戦略を広げる」という意味も理解されたであろう。

「戦略的思考の基本的順序」の体得は、書いてみるのが「王道（正道）」である。自学研鑽の時は言うまでもなく、将来、戦略の実務に就いた際、会議や調整はあっても、書き下ろすの

は、常に己一人だからである。

「戦略的思考の基本的順序」のどの段階をとっても「広く深い（軍事）専門的知識」と「論理的思考」が重要なことは言うまでもない。他方、「直感的洞察力（ひらめき等）」が、戦略立案の決定打となることは珍しいことではない。戦略が「アート」とよばれるゆえんである。

上述した「戦略的思考の三段階」を記憶に定着させるため、「累積的学習法」すなわち繰り返し学習法を採用した。この学習法は、「戦略的思考の基本的順序」の設定と密接な関係にある。各章の「節立て」は、この「戦略的思考の基本的順序」に対応しているからである。言い換えれば、本書は、第2章以降の全章において「戦略的思考の基本的順序」で「節立ての統一化」が図られているのである。

「節立ての統一化」は、本書における編集の主眼である。「章」は逐次変わっていく、しかし「統一化された節立て」は、原則的に変化しない。このため読者は、第2章以降の12個章を本書の「戦略的思考の基本的順序」にしたがって、繰り返し学ぶことになる。その結果、本書における「戦略的思考の基本的順

序」を自然に記憶に定着させることができる。

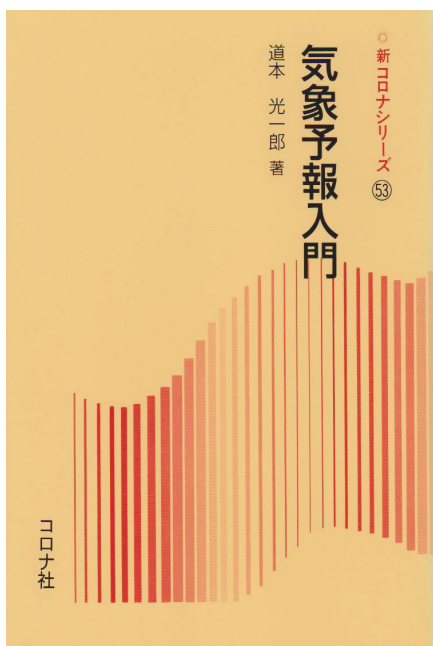
したがって、本書のキャッチ・フレーズは「読むだけで初歩的な戦略的思考能力が身に付く入門書」である。

本書は、456頁からなる比較的分厚い書である。本書を手にしたとき、読者は好奇心に惹かれる一方で、この分厚さに戸惑われるかも知れない。しかし、本書は全部読まなくては「戦略的思考能力」が初歩的にも身に付かないというものではない。

第1章は必ず読んでいただき、後は古典戦略でも現代戦略でも、好みに応じて数個章読んでいただければ、少なくとも「戦略的思考の基本的順序」は基礎的に身に付く。

では、この分厚さは何ゆえか。理由は三つある。まず、『孫子』に始まる古典戦略から21世紀初頭の戦略まで広くカバーして、広い読者層のニーズに応えること、また戦略の専門家を志す初心者にも、出来るだけ多くの古今の戦略を提供すること。そして、本書のキャッチ・フレーズ「読むだけで初歩的な戦略的思考能力が身に付く入門書」として十分な量であることである。

~~~~~ 教官著書の紹介 ~~~~~  
『気象予報入門』



所 属

防衛大学校防衛学教育学群

著 者

国防論教育室

准教授 道本 光一郎

コロナ社（2005年）

航空自衛隊での気象幹部としての研究活動の成果として、1998年に「冬季雷の科学」という著書を出版しました。この本は、今回紹介する本と同じシリーズである新コロナシリ

ーズ第41号として出されました。内容は著者の博士論文取得までに行った観測や研究についての著述です。

引き続き、本書は、著者が20数年間、航空自衛隊で気象幹部として勤務した経験等を通じて得た知見を、平易な文体でまとめた著作です。同じく新型コロナシリーズ第53号として編まれました。本シリーズの読者層については、高校生から主婦層でも十分に読みこなすことができるように、という幅広い読者を想定しての編集方針がとられていて、内容についても、数式を使わずに理解できるような記述に心掛けてあります。よって、大学生であれば内容の把握は比較的容易であろうと思われます。

それでは内容について少し詳しく紹介します。先ず初めに第1章では、「気象予報の基礎知識」として気象学の基礎的事項を記載しました。気象予報とは何か、から始まり、気温、気圧、風、雲、雨などの天気予報にお馴染みの用語の説明などを分かりやすく記述しています。

続いて第2章の「気象学的に興味のある諸現象」では、私の専門である雷（かみなり）はもとより、竜巻・ダウンバースト、台風など、最近大変増加してきている自然災害の発生原因とも指摘されている現象について解説をしています。気象庁では既に、竜巻注意情報を発令するようになりましたし、来年には、雷（かみなり）注意情報の発出に向けて準備を進めています。

第3章では、「四季の気象特性および地域特性」について説明しています。日本には四季があります。春夏秋冬、それぞれの季節ごとに、また、それぞれの地域ごとに、特異な気象の性質が存在しています。季節毎の気象予報のポイント、注意点等を述べ、様々な状況に合致して予報・予測ができるように具体

例を示して記述しています。

第4章の「気象・気候トピックス」では、近年注目されてきている地球温暖化や環境問題などのトピックスについての解説や、それらが原因ではないかと考えられる異常気象や気象災害の増加などについて説明しています。また、新しいところでは、宇宙天気予報という言葉の説明をしています。太陽から放出される粒子によって、地球上で様々な障害が発生します。通信障害や大規模停電などです。このように、20世紀には想定できなかったような各種災害や障害が、21世紀には益々多く発生するようになるでしょう。また、地球温暖化についてもさらに加速するものと思われるので、是非これらの事柄についても興味を持たれ、積極的に知識を吸収していただきたいと思います。

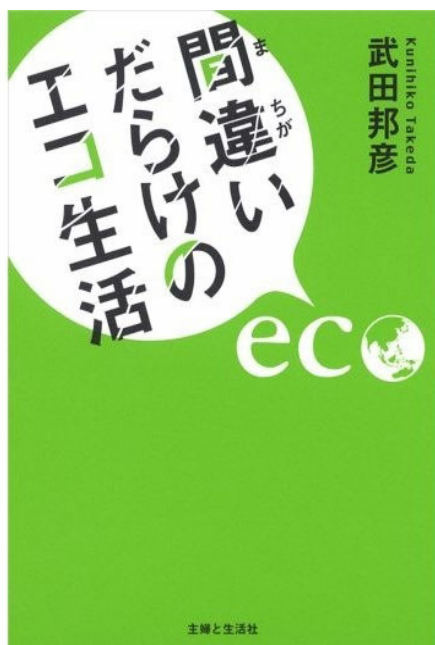
そして第5章の「気象予報の方法」では、実際に具体的な天気予報の方法について述べ、マスメディアからの気象情報をもとにし、各個人がいかにして気象災害等に遭わずに生きていけるかについて記述しています。現代は、一億総気象予報官の時代に近づいているかもしれません。一人一人が、自分の身は自分で守る、という信念のもとに行動することが益々求められると思います。

本書の最後には「付録」として、天気予報の用語の解説や気象予報士試験に挑戦する人たちのための参考事項にも触れています。これから気象の勉強を始めようとしている人、気象予報士試験を受験しようという人などへの参考となる内容と思います。

このように本書は、一般教養としてお天気に興味のある人、これから気象予報を本格的に勉強し、防災に役立てようとする人など、また、気象予報士を目指す人など、様々な読者層が期待できる一冊です。是非皆さんに読んで頂きたいと思います。



~~~~~ 教官推薦著書の紹介 ~~~~~  
『間違いだらけのエコ生活』



今からおよそ〇〇年前、私が高校2年生の時の世界史の先生がこんなことを言っていた。「今、盛んに森林伐採を食い止めようと、割り箸を使わないようにしようという運動が起り始めている。でもそれは間違っている。割り箸は間伐材といって、木がしっかり育つために間引きした分を使って作られているんだから、むしろ有効利用されているのだ。」なぜ世界史の先生がそんなことを言ったのかその経緯は詳しく覚えていないが、それから7年後の修士2年の時、同僚と同じテーマについて議論する機会が訪れた。彼女は環境問題に興味があるために修士課程では地球化学を学ぶこの研究室を選んだそうで（私はただ単純に地学が好きだったので入っただけだった）、ことあるごとに環境省に就職したいとか、何か環境に役立つことをしたい、と言っていた。そして無事修論を提出した後、彼女は変な（というのは言い過ぎだけれど）環境サークルのようなものに入ると言い出した。そしてどこか遠くの砂漠化の進んでいるところに木の苗を植えに行くんだと息巻いていた。また、

著者

武田邦彦

紹介

応用化学科

助教 杉江（神谷）奈津美

主婦と生活社（2008）

そのサークルでの飲み会の時に、周りの人全員が「マイ箸」を持っていたのに、自分だけ持っていないですごく恥ずかしかった。だからこれからは持つことにする！とこれまた熱くなっていた。日頃彼女のやることに対してそれほどなんとも思っていなかったし、むしろ仲が良いくらいだったのだが、その時ばかりはなぜだか猛烈な憤りを感じた。そして彼女に世界史の先生が教えてくれたことを言い放ち、それに加えて、木の苗を植えに行くために飛行機に乗る金があるならそれをそのまま寄付すればいい。あなたがやっているのはただの自己満足だ。自分がこれだけ地球に、環境に貢献していると実感して浸りたいだけじゃないか。そんなに環境問題を深刻に考えているならファッションで流されるのはやめた方がいい。と一気にまくし立ててしまった。彼女は押し黙り、しばらく気まずい関係になってしまったことは言うまでもない。

前置きが長くなってしまったが、私はその事件(?)の後、世界史の先生が言っていたことを鵜呑みにして言ってしまったが、それが果して本当に正しいかどうか少し心配になってきた。当時は特にそれ以上調べることをしなかったのだが、その後私は就職し、防衛大で「燃料化学講座」というまさにエネルギーと環境を考えるべき研究室の教官として着任したのである。これはやはり少し真剣に考え

なくてはならない。紹介する図書はまさに私のように日頃から世の中のエコブームに疑問を感じたり、真実を知りたいと思っている人にはぴったりの本である。まずのっけから『レジ袋を使った方が環境に良い』と断言されているのには驚愕した。私は先ほど言った彼女と比べれば地球環境への取り組みはしていない方かもしれないが、基本的にゴミ分別の鬼だし、マイバックも持っている(マイ箸は意地でも持たないことにしているが)。洗剤なども「地球にやさしい」と書かれているものを使っているし、全く考えていないわけではないと思っている。しかし、本書にはリサイクルをすることで安心感が生まれ、それがさらなる大量消費につながっていると書かれている。私たちはリサイクルという言葉に洗脳され、毎日たくさんのゴミたちをきっちり分別し、「あ～！今日も地球にいいことした！！」と結局自己満足をしているにすぎないのである。

本書は巷に溢れるエコブームに疑問を投げかけ、マスコミや建前的な政策に踊らされる庶民に対して自分で考える力を養うことを奨励している。実際読み進めていくと、「えっ！？これはちょっと言い過ぎなんじゃ…」と思うことも実はある。最後の方は精神論になってしまっている部分も多々見られるし、紹介したからと言って「この本がすべて正しいですよ、皆さんもこの本の通りにしましょう！」という気はさらさらしない。しかし読んでいくと、この問題については本当はどうなのか？誰が何の目的でこの政策を打ち出したのか？など、様々な疑問点が浮かんできて、それらについて知りたくなってくるから不思議だ。皆さんにも本書を通してぜひ自身が日ごろ行っている「エコ」の実態を知り、本質を見抜く力をつけてもらいたいと思う。

最後にひとつ付け加えておくと、彼女とはその後もちろん仲直りをし、今でもいい関係を築けている。何でもぶつけあえて、議論のできる人こそが本当に長続きする友人になり得ると思う次第である。

---

### 編集後記

本年度4月1日より図書館と学術情報センターが統合され名称が総合情報図書館になりました。

今後も総合情報図書館において、蔵書展示等を実施していく予定ですので、より多く利用者の方々に見学していただけるよう総合情報図書館員一同お待ちしております。

編集庶務担当

---

NADAL Bulletin Vol. 24, No. 1  
防衛大学校図書館だより 2009. 9

---

### 発行所及び発行人

〒239-8686 神奈川県横須賀市走水  
1-10-20

防衛大学校総合情報図書館 Tel. 046-841-3810  
総合情報図書館長 村井友秀

---

### 編集委員

新井重信 (体育学教育室)  
吉村幸浩 (応用化学科)  
講初靖 (国防論教育室)

---

### 編集庶務

木原啓一 (総合情報図書館事務室)  
森山伸一 (総合情報図書館事務室)

---

### 印刷所

防衛大学校総合情報図書館事務室  
「図書館だより」事務局 出版

---